

2026年度 北見藤高等学校シラバス

〔教科〕 〔科目〕	〔数学〕A〔数学A〕	2年	2単位	教科書	最新 数学A（数研出版）	副教材等	履修対象・ 使用教室 等		2年3組・HR教室
教科・ 科目 の 目標	(1) 図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。								
評価 の 観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする			図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を養う。			数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価 方法	＊単元などの授業内容のまとまりごとに「評価の観点」に基づいた観点別評価を行い，〔A:「十分満足できる」状況 B:「概ね満足できる」状況 C:「努力を要する」状況〕とする。 ＊単元などの観点別評価に基づいて，学習全体の総括的な評価を行ったものを「5段階の評定」とする。								
評価 資料 ・ 評価 比重 (100点換算)	評価資料等		予定回数・内容等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	単元テスト		節ごとに実施し，定着度をはかります。			50	50		
	確認テスト・レポート課題		適宜実施をし，その都度，理解度をはかります。			50	50		
	授業への取り組み姿勢・自主課題の提出		問題演習やレポート課題などの取り組み状況，自主的な課題提出					100	
	〔観点別配分％〕		〔3観点の比重を％で示しています〕						
月進行 〔計画〕	【単元名】 学習項目名	配当 時間 〔計画〕	学習内容・目標（到達点） など			主な評価資料		評価の重み付け（◎○）	
							知・技	思・判・表	態度
4 5	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	12	・場合の数を求めるとき基本的な考え方についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。			単元テスト	○	○	
						確認テスト・レポート課題	○	○	
						授業への取り組み姿勢・自主課題の提出			◎
6 7	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 組み合わせ	12	・場合の数を求めるとき基本的な考え方についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。			単元テスト	○	○	
						確認テスト・レポート課題	○	○	
						授業への取り組み姿勢・自主課題の提出			◎
8 9	第1章 場合の数と確率 第2節 確率	10	・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。			単元テスト	○	○	
						確認テスト・レポート課題	○	○	
						授業への取り組み姿勢・自主課題の提出			◎
10 11	第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質 第2節 円の性質	12	・三角形の性質についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・円の性質についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。			単元テスト	○	○	
						確認テスト・レポート課題	○	○	
						授業への取り組み姿勢・自主課題の提出			◎
12 1	第2章 図形の性質 第3節 作図 第4節 空間図形	10	・作図についての理解を深め，作図の各過程において平面図形のどの性質を用いているかを考察できるようにする。			単元テスト	○	○	
						確認テスト・レポート課題	○	○	
						授業への取り組み姿勢・自主課題の提出			◎
2 3	第3章 数学と人間の活動	14	・さまざまな人間の活動の中から，整数を中心とした数学的な要素を見出し，数学の内容の理解を深めると同時に，現実の事象を，数学を用いて考察できるような力を培う。			単元テスト	○	○	
						確認テスト・レポート課題	○	○	
						授業への取り組み姿勢・自主課題の提出			◎
学習の アドバイス	・数学Aの基礎基本（教科書レベル）の定着をはかります。 ⇒基礎基本の定着（知識・技能）なくしては，応用問題や入試問題（思考力・判断力・表現力）に対応できない。 ・数学は積み重ねの教科です。 家庭学習の習慣が必須となります 。授業では「理解」、家庭学習にて「定着」を心がけてください。								